



本校 HP QRコード



令和6年度 学校評価・学校関係者評価（報告）

皆様方のご協力により、「令和6年度 学校評価・学校関係者評価」を終えることができましたことを本紙面にてご報告申し上げます。この評価を生かして、次年度も本校教育活動の改善に取り組んでまいります。1年間、ありがとうございました。

I 学校評価（保護者アンケート）の結果集計

A=よくあてはまる

B=どちらかといえばあてはまる

C=どちらかといえばあてはまらない

D=まったくあてはまらない

E=どちらともいえない

No.	評 価 項 目	A	B	C	D	E
1	お子様は、学校へ行くのが楽しそうである。	50%	39%	7%	1%	3%
2	お子様は、学校の授業がよくわかっている。	26%	52%	15%	2%	5%
3	お子様は、本に親しみ、読書習慣がよく身についている。	17%	29%	36%	14%	5%
4	お子様は、日頃からあいさつができています。	33%	48%	13%	2%	5%
5	お子様は、「思いやりをもって、人に親切にしよう」と生活している。	39%	51%	6%	1%	4%
6	お子様は、安全や健康に気をつけて生活している。	38%	50%	7%	0%	4%
7	お子様は、生活のきまりを守ることができています。	33%	55%	8%	1%	4%
8	お子様は、情報機器（Chromebook・携帯電話・タブレット・ゲームなど）を使う際は、ルールやマナーを守っている。	27%	45%	17%	5%	6%
9	本校では、算数（5，6年）、外国語（5，6年）、外国語活動（4年生以上）、音楽（2年生以上）、図工（3年生以上）において、専科授業を実施している。また、高学年においては、交換授業も行っている。それによって、学習効果は高まっていると思われる。	25%	48%	7%	1%	19%
10	学校はお子様のことで相談しやすい。	27%	56%	7%	2%	9%
11	教育活動における学校の環境は整備されている。	22%	64%	5%	1%	9%
12	学校と家庭、および地域との連携は図れている。	19%	62%	7%	1%	11%

Ⅱ 学校評価・学校関係者評価のまとめ

1 教育目標 「『自主・自律』の心を育てる」 一心豊かに自ら学ぶ子の育成

2 基本方針

《めざす学校像》 子ども一人ひとりが生き生きと過ごせる学校

《めざす児童像》 ①勉強だいすき がんばる子 ②心やさしく 正しい子 ③みんなで運動 きたえる子
④進んで行動 やりぬく子

3 指導目標

- 1、考え、表現し、学力を高め合う子どもの育成
- 2、自他のよさを知り、かかわり合うことのできる子どもの育成
- 3、自他のいのちの大切さを理解するとともに、心身の健康・体力づくりに励む子どもの育成
- 4、目標を持ち、明るい心で挑戦し続ける子どもの育成
- 5、質の高い教育環境づくり
- 6、家庭・地域との連携
- 7、教師力の向上

重点目標	評価項目	達成状況	●成果 ◆課題	自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
考え、表現し、学力を高め合う子どもの育成	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「加古川型スマート探究学習」の実践 ○社会の中で必要な汎用的能力である「ことばの力」の育成を目指した言語活動の充実	B	●ICT活用と「協同探究学習」の融合に向け、学年間で研究を進めたり、講師を招聘して学んだりしながら、実践力を向上させることができた。 ●話し合い聞きあう言語活動を授業に取り入れ、そこから自分の考えを広めたり深めたりする授業の在り方を共有し、指導法の研鑽に取り組むことができた。 ●学習支援コンテンツを中心にICT活用が進み、それが「主体的な学び」につながりつつある。 ●ゲストティーチャーへの手紙等、必ず書く活動を取り入れるなど、まずは「多作」の意義を共通理解することができた。 ◆「家庭学習にかかるアンケート」の結果が、児童個々の取組に反映されていない。	ICTを活用した授業づくりを引き続き推進するとともに、職員間での情報共有で互いに高めあってほしい。 児童一人ひとりがドリル学習や発表、意見交換等、Chromebookを存分に活用してほしいが、「書くこと」の大切さも感じるので、ハイブリッドで進めていく取組も期待している。	A
自他のよさを知り、かかわり合うことのできる子どもの育成	○子どもの居場所づくり、絆づくりを進める児童の主体的な取組の推進 ○いじめ、不登校、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応 ○命を大切にす心や思いやりの心、規範意識の醸成など「心の教育」の充実	A	●朝会、児童集会において、各委員会からの発信を積極的に取り入れ、児童が主体的に運営する学校づくりを進めることができた。 ●運営委員会が、「いじめ防止啓発集会」やペア学年交流の「心の絆プロジェクト」を計画したり、体育委員が大縄大会を進めたりと、良質な仲間づくりを目指した児童の活動が実践された。 ●性の多様性についての授業を第4学年で実施し、新たな人権課題にアプローチすることで、違いを認め、思いやる心を高めることができた。 ◆読書活動をより充実させ、情操面の成長へのアプローチが必要である。	子どもの主体性を大切にしたい取組が多いので、継続してほしい。 いじめや不登校問題については、日頃から児童の内面理解に努め、教師間で情報を共有し、全職員で問題解決に取り組んでほしい。 読書離れが心配ではある。図書ボランティアの活動を生かし、図書室が児童や保護者にとって身近な存在になっていくようにしてほしい。	B
自他のいのちの大切さを理解するとともに、心身の健康・体力づくりに励む子どもの育成	○正しいインターネットの利用に関する取組の推進と、保護者への啓発 ○体力・運動能力調査を活用した運動習慣の定着と体力の向上 ○「柔軟体操」等全学年共通した運動の取組	B	●インターネットトラブル防止講座を複数回実施し、情報活用能力・情報モラル等の育成に努めた。 ●体育科では、前年度より課題であった「柔軟活動」の取組を増やしたり、体力アップサポーターとして外部講師を迎えたりするなど、6年間の系統を目指した授業実践ができた。 ◆情報モラルについては、児童への指導だけでなく、学校だけでなくホームページでも周知しているが、家庭への啓発はさらに必要と考える。	低学年から携帯電話を所持しているようで様々なトラブルに巻き込まれないのか心配している。保護者の責任で管理できるように、啓発を続けてほしい。	B
目標を持ち、明るい心で挑戦し続ける子どもの育成	○自尊感情の向上に向けた、児童の内面理解に基づく指導の充実と心のケア ○外部人材の登用によるキャリア教育の推進 ○持続可能な社会に向けて、自然と触れ合う体験型環境学習等の「SDGs」との関連を意識した教育活動の推進	A	●「心の相談アンケート」や「アセス」などを活用して、児童の抱える困り感の把握に努めるとともに、個別に話をする機会を設けるなどして、内面理解につなげることができた。 ●地域ボランティア(ミシン・見守り・図書・園芸など)との異世代交流を通して、児童と地域の多様なふれあいを確保し、故郷を愛し、感謝する心を育むことができた。 ●「職業人と語ろう」「消費者金融教育」「命のボランティア講座」など、外部人材を積極的に活用し、キャリア形成に役立てられた。 ◆SDGsを視点とした学習活動については、今後研究が必要である。	地域の見守りをしていると、「ただいま」と子どもたちの爽やかな挨拶が聞けて、元気をもらっている。今後も地域で子どもたちを見守り続けていくので、子どもたちの健全育成につながっていくことを期待している。そして、今後も開かれたより良い学校づくりが進むよう、学校運営協議会を活用してもらいたい。	A
A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない					